

- p.19 項目 (iii) の2行目

物理量の (仮に

↓

任意の物理量の (仮に

- p.82 定理 3.5 の直前

節末の補足を参照

↓

3.20.1 節を参照

- p.102 要請 (5) の直後の文の以下の部分を太字にする

「直前」から「直後」の間には時間が経過

↓

「直前」から「直後」の間には時間が経過

- p.238 項目 (i) の2行目

ことはない。

↓

ことは一般にはない。

- p.242 「具体的に」で始まる段落の前に、以下の段落を挿入

また、本書は、本質・原理原則・一般性に重点を置いているので、すぐ次に読む本としては、正反対のタイプである、計算テクニックに重点を置いた本を選ぶのもバランスがとれてよいだろう。その際にも、ときどき本書と見比べて、「この本でやっていることは、(本書で学んだ)一般的な枠組みから見ると、^{あいま}を基本変数にとって、正準量子化で量子化して、(4.5 節の)正準量子化の曖昧な部分は素朴な対称化で済ませたことになる」とか「有限自由度系だから無限自由度系の場合の(7.3 節に書いた)問題^{おぼ}を気にしなくてよいのだな」などということを確認しながら読むことをお勧めする。そうすれば、計算の海に溺れて本質を見失ってしまうことなく、計算テクニックを習得できると思う。

- p.242 第2段落の冒頭

具体的に学ぶべき事項も列挙しておこう。

↓

本書の後に学ぶべき事項は、具体的には次のようになる。